

# 早稲田大学 大学院会計研究科

## 「会計専門コース」「高度専門コース」 —カリキュラム・入試—



早稲田大学 会計研究科

Graduate School of Accountancy, Waseda University

# 当研究科の概要

パンフレット  
p.23

## 名称

- ・ 早稲田大学 大学院会計研究科
- ・ 専門職学位課程 会計専攻

## コース・定員

- ・ 会計専門コース(2年)
  - ・ アクチュアリー専門コース(2年)
  - ・ 高度専門コース(1年)
- } 入学定員100名、  
収容定員200名

## 学位

- ・ 会計修士(専門職)  
英文名称: Master of Business Administration (MBA)

## その他

- ・ 昼間開講方式
- ・ 2005年4月設置
- ・ 常勤教員 15名 (うち実務家教員8名)

パンフレット p.16

# 会計専門コース(2年制)

パンフレット  
p.6

## 修了要件

- ・ 2年以上在学し、60単位以上を修得

## 理論と実務が融合した多角的な教育

会計科目(財務会計・管理会計・監査)  
法学関連科目(企業法/民法・租税法)  
経済関連科目(経営学・経済学・統計学)



ERPシステムを活用したIT関連科目  
実践的なコンサルティング関連科目  
IFRSなどの国際関連科目  
英語・コミュニケーション関連科目

## ユニークな科目

- ・ ワークショップ科目、テーマ研究科目

# 高度専門コース(1年制)

パンフレット  
p.10

## 修了要件

- ・ 1年以上在学し、48単位以上を修得し、専門職学位論文に合格

## コンセプト

- ・ すでにプロフェッショナルとして活躍されている方が、さらにエキスパートとなることを目指すコース
- ・ 単に社会人経験者が“学び直す”コースではない

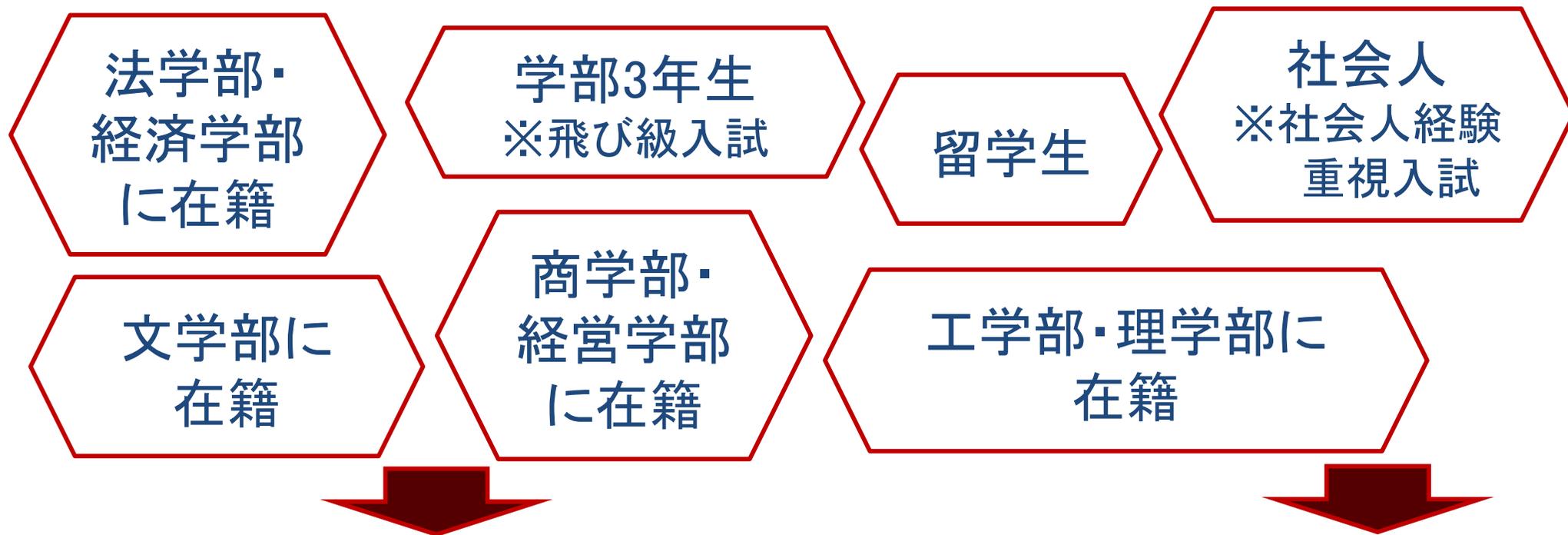
## 入学時に指導教員を選択

- ・ 2026年度の研究科目と指導教員については、入試要項等にて案内

## 一般科目等履修生として学ぶメリット

- ・1科目から、関心のある科目だけを重点的に履修可能  
(最大で各学期14単位、年間28単位まで)
- ・単位修得が可能  
([基礎必修科目を除く]10単位以上を修得した場合、「履修証明書」を交付)  
⇒修得後2年以内に正規生として入学した場合、修了単  
位に算入可
- ・聴講料は、1単位あたり74,400円
- ・自習室や図書館など大学施設を活用できる

# 「会計」「数理」に強いMBAで広がるキャリア



## 早稲田大学 大学院会計研究科への進学

- 公認会計士になりたい人はもとより、コンサルタントや経理・財務職などの会計プロフェッショナルを目指す
- 2019年度からは、アクチュアリー専門コースも開設

人生100年の時代だからこそ「急がば回れ」

# 会計プロフェッショナルの養成

- 会計プロフェッショナルとは、会計を主たる専門領域とし、公認会計士、コンサルタント、企業や組織内の会計担当者として働く人を指す。
- 会計の知識を有しているのは当然で、周辺領域の知識やスキルを加えることが必須(なぜ?)
- たとえば、監査法人で働く人は公認会計士資格を保有しており、そこで自らの価値を高めるためには……??

## 会 計

### ICT・コンサルティング

- ・ 多くのコンサルティング企業と連携した講座
- ・ ERPシステムなどの科目

### データサイエンス

- ・ ビジネスの観点から、より広い範囲の課題への対応

### Professional Communication

- ・ ネイティブによる講義、会計を英語で学ぶ講義
- ・ 協定校(米・仏)との留学プログラム

### 税務

- ・ 主要税目の基本構造や実践的な税法解釈を修得
- ・ EY税理士法人 提携講座(グローバル・タックス)
- ・ 野村資産承継研究所 提携講座(事業承継対策)

### アクチュアリー

- ・ 数理計算スキルを習得
- ・ 生命保険数理、年金数理、損害保険数理



## まず、会計（財務会計、管理会計、監査等）

### 理論科目

- ・最新の財務会計・管理会計・監査のほか、企業活動に関連する経済学・統計学・経営学・法学など、会計とビジネスに関する専門教育・実務教育を提供
- ・理論を体系的に学ぶことは、受験のうえでも役に立つ
- ・「実務・応用科目」を学ぶことにより、理論と実務のシナジー効果を発揮

### 計算科目

- ・計算は、理論を確認する手段
- ・「基礎簿記」「簿記Ⅰ」「簿記Ⅱ」「基礎原価計算」「原価計算A」「原価計算B」などの講義科目

### アウトプット トレーニング

- ・アサインメント（基礎科目の授業の復習として）
- ・公認会計士試験（論文式・短答式）答案練習講座（キャリア支援講座）

### 監査法人による提携講座

- ・有限責任あずさ監査法人[会計・監査の最新実務]
- ・EY新日本有限責任監査法人[金融機関のガバナンス・リスク管理・コンプライアンス]
- ・PwCJapan有限責任監査法人[グローバル会計入門]
- ・太陽有限責任監査法人[IPO実務]
- ・Forvis Mazars有限責任監査法人[ESG・サステナビリティ開示入門]

パンフレット p.18

## 在学中の合格

- ・ 試験制度に沿った講義科目
- ・ アサインメント・答案練習講座の設置
- ・ 合格・就職後の競争優位を得るための知識・スキル

## 修了後

- ・ 修了者(\*1)で、かつ会計科目28単位以上(\*2)を修得した者は、  
短答式試験の財務会計論、管理会計論、監査論を免除(\*3)

(\*1) 短答式試験免除が受けられるのは修了後

(\*2) うち、財務会計10単位以上、管理会計6単位以上、監査6単位以上

(\*3) 通常の受験による短答式試験合格は、向こう2年間に限り有効

## 合格実績

論文式試験合格者	在学生	修了生	会計研合計
令和6年(2024年)	17名	11名	28名
令和5年(2023年)	17名	12名	29名
令和4年(2022年)	12名	8名	20名
令和3年(2021年)	8名	13名	21名
令和2年(2020年)	13名	10名	23名

- ◆ 2024年3月までの修了生総数(高度専門・アクチュアリー専門コースを含む) **1,896名**  
うち公認会計士論文式試験合格者数 **767名**

## 実務で生きるシステム関連スキル

ERPシステムなどの科目

- ・ 大企業のプロセスは、「ヒト」「モノ」「カネ」「情報」をERPシステムによって統合的に管理
- ・ SAP® ERPシステムをPC教室に導入

多くのコンサル企業との連携講座  
(提携講座)

- ・ デロイト トーマツ コンサルティング [CRM実務]
- ・ デロイト トーマツ コンサルティング [CFO組織の未来像]
- ・ KPMG FAS [事業再生と再生型 M&A]
- ・ ジャパン・ビジネス・アシュアランス [経理部門における内部統制とガバナンス実務]

パンフレット p.18

## 英語で学び、グローバルなプロフェッショナルに

ネイティブ  
による講義

- ・ Business Communication-basic, Business Communication, Professional Presentations, International Negotiation, Corporate Governanceなど（一部で入門-発展のレベルごとの科目あり）

国際関連業務の  
実務・応用科目

- ・ 国際会計基準 (IFRS)、Financial Accounting Workshop、事業戦略管理会計ワークショップ、国際税務、Corporate Tax Law Workshop など

協定校との  
留学プログラム

- ・ エセック経済商科大学院大学 (ESSEC Business School)
- ・ ハワイ大学マノア校 (University of Hawai'i at Manoa)
- ・ ジャクソンビル大学 (Jacksonville University)

## 英語で学び、グローバルなプロフェッショナルに

プログラム名	留学先	留学時期	応募資格	応募締切
三澤本庄 国際奨学金付 留学プログラム	University of Hawai'i, Shidler College of Business (アメリカ)	2年次の 5月～7月 または8月	日本国籍を有する者 TOEFL® iBT79以上	1年次の 11月頃
ESSEC 交換留学 プログラム	ESSEC Business School (フランス) (授業は基本的に英語)	2年次の 9月～12月	TOEFL® iBT79以上	1年次の 1月頃
ESSEC Summer Module		2年次の 6月～7月 (3週間)		
Jacksonville 交換留学 プログラム	Davis College of Business, Jacksonville University (アメリカ・フロリダ州)	2年次の 8月～12月	TOEFL® iBT61以上	1年次の 1月頃

(\*) いずれも奨学金制度あり

## 基礎科目群 (2単位必修)

- ・ 会計プロフェッショナルとして最低限の知識の修得
- ☛ 必修科目: 「財務会計リテラシー」
- ☛ 選択必修科目: 「プロフェッションと倫理」、「アクチュアリーのプロフェッショナリズム」

## コア科目群

- ・ 発展的な知識の修得

## 実務・応用科目群 (8単位以上) 〔 Professional Communication系統科目 およびワークショップ科目から3単位以上 〕

- ・ 専門性を伸ばす
- ☛ ワークショップ科目 (プレゼンテーション、ディスカッションなどの参加型授業)
- ・ 最先端で活躍する多数の実務家教員による実践的指導 (提携講座など)
- ☛ 有限責任あずさ監査法人、EY新日本有限責任監査法人、PwC Japan有限責任監査法人、太陽有限責任監査法人、Forvis Mazars有限責任監査法人、KPMG FAS、JBA、デロイトトーマツコンサルティング、EY税理士法人、野村資産承継研究所

# 研究科暦

## セメスターとクォーター

- ・ セメスター(14週) 春学期・秋学期
- ・ クォーター(7週) 春Q・夏Q・秋Q・冬Q

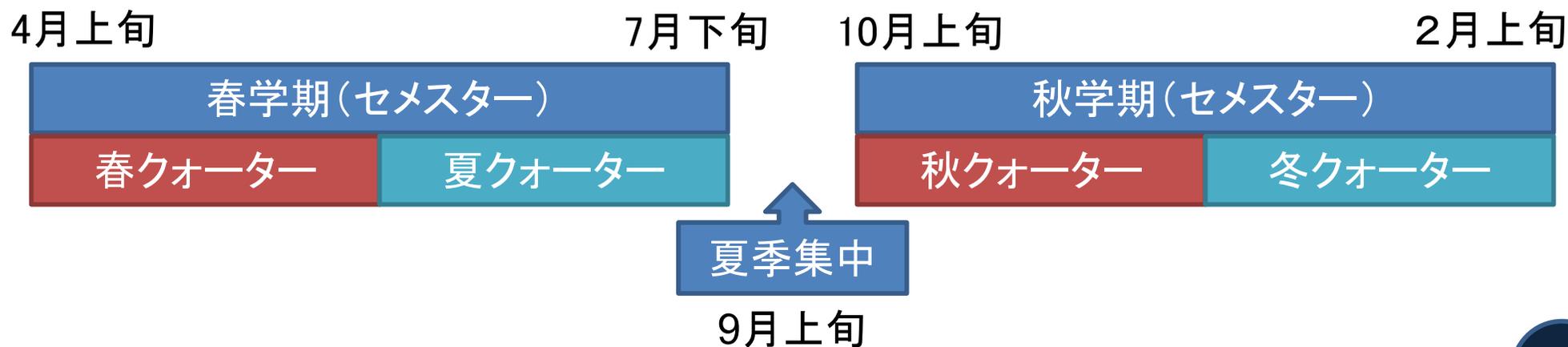
## 100分授業

- ・ 2023年度から100分授業(2022年度までは90分)を導入

## 対面授業とオンデマンド授業

- ・ 対面授業を主としながら、オンデマンド授業も設置

- ・ 春・秋セメスターに同一科目設置あり。より柔軟な学習計画が可能
- ・ 学期の短縮による集中化



## 監査法人との連携

- ジョブフェア
- キャリア教育
- 実務家教員の派遣
- オフィスツアー

### 4大監査法人ジョブフェア

論文式試験受験予定者又は合格者が対象  
※2025年度は、8月25日(月)に実施予定

## 研究科独自のキャリア支援

- ジョブフェア
- インターンシップ
- 修了生や先輩学生による就職活動報告会
- キャリア支援プログラム
- 就職活動セミナー、キャリア講演会など

## 修了生の主な就職先(2021年3月－2024年3月修了生)

### 監査法人・税理士法人

有限責任あずさ監査法人、EY新日本有限責任監査法人、有限責任監査法人トーマツ、PwC Japan有責任監査法人、太陽有限責任監査法人、Forvis Mazars有限責任監査法人、EY税理士法人、KPMG税理士法人、デロイトトーマツ税理士法人、PwC税理士法人 ほか

### コンサルティングなど

EYストラテジー・アンド・コンサルティング、デロイトトーマツコンサルティング、PwCコンサルティング、デロイトトーマツファイナンシャルアドバイザー、アクセンチュアほか

### 金融

みずほフィナンシャルグループ、三菱UFJ銀行、三菱UFJ信託銀行、損害保険ジャパン、東京海上日動火災保険、三井住友海上火災、明治安田生命、JA共済連、アフラック生命、ジブラルタ生命、ソニー生命、マニユライフ生命、太陽生命 ほか

### 商社・製造業・不動産等

三菱商事、三井不動産、任天堂、エーザイ、ソニー、東芝、花王、ライオン、日本電気、三菱電機 ほか

### その他(情報サービス、通信、公務員・非営利団体)など

NTTデータ、KDDI、SAPジャパン ほか

# 入試概要-会計専門コース・高度専門コース

特別な実務経験なし	→	大学4年生または大学卒で、簿記・財務会計・原価計算・管理会計を十分に学習した	会計専門コース 1-A: 一般入試(一次)12月、(二次)1月
	→	大学3年生で、簿記・財務会計・原価計算・管理会計を十分に学習した	1-F: 飛び級入試 10月・12月
	→	会計に加え、英語が得意である	1-H: 英語力重視入試 12月
	→	会計に加え、ITの知識が十分にある	1-I: IT能力重視入試 12月
	→	早大各学部を卒業見込である	1-C: 学内推薦入試 7月・10月・1月 1-D: 学内AO入試 7月・10月 1-E: 学内5年一貫修了制度入試 7月・10月
実務経験あり	→	国家資格または実務経験がある	1-G: 社会人経験重視入試 10月・1月 3-A: 高度専門コース 一般入試 10月・1月
	→	実務に必要な最新の会計知識を学び直したい	1-B: 企業等派遣入試 12月・1月 3-B: 高度専門コース企業等派遣入試12月・1月
	→	研究論文を執筆したい	
	→	企業等の大学院派遣制度を利用して学びたい	
		1科目から最先端の領域の知識やスキルを学びたい	一般科目等履修生入試 7月・1月

# 入試概要-会計専門コース

入試要項  
参照

入試形態	入試時期				出願資格の概要
	7月	10月	12月	1月	
1-A: 一般入試			○		
1-B: 企業等派遣入試			○	○	上場企業等からの派遣
1-C: 学内推薦入試	○	○		○	(後述)
1-D: 学内AO入試	○	○			(後述)
1-E: 学内5年一貫 修了制度入試	○	○			(後述)
1-F: 飛び級入試		○	○		(後述) 3年生が大学で「A」以上50単位等 + 日商簿記1級・会計士短答式等 (大学院入学後、学部の在籍は不可)
1-G: 社会人経験重 視入試		○		○	経理等の実務経験7年以上、又は、 経理等の実務経験3年以上 + 日商簿記2級
1-H: 英語力重視入試			○		TOEIC800点以上等 + 日商簿記2級等
1-I: IT能力重視入試			○		情報処理技術者試験等 + 日商簿記2級等

# 入試概要-会計専門コース

## 1-C: 会計専門コース 学内推薦入試(7月、10月、1月)

早稲田大学各学部を、2025年度中に卒業または卒業見込で、かつ、以下(1)または(2)を満たす者

(1) GPAが**2.7以上**

(2) 次のA**および**Bの条件を満たしていること

A: GPAが**2.4以上**

B: 以下の①から③の**いずれか**を満たしていること

①商学部設置科目の『簿記Ⅰ』または『簿記中級』の成績が「A」以上、および『原価計算論』または『原価計算中級』の成績が「A」以上(※)

②日商簿記検定試験(ネット試験を含む)2級以上、または全経簿記能力検定試験1級以上に合格

③会計学、商法、租税法、経済学(ミクロ経済学・マクロ経済学)に関する科目につき、20単位以上が「A」以上

※2025年度より『簿記Ⅰ』は『簿記中級』、『原価計算論』は『原価計算中級』に科目名称変更

# 入試概要-会計専門コース

1-D: 会計専門コース 学内AO入試(7月、10月) ※1月はありません

早稲田大学各学部を2025年度中に卒業または卒業見込である者

※その他, 成績等の出願資格要件は無し

→学内推薦の成績要件満たしていないものの, 簿記・財務会計・原価計算・管理会計を十分に学習済みである方が対象

選考方法:

「財務会計(簿記を含む)」および「管理会計(原価計算を含む)」

または会計に関連する諸領域の知識ならびに論理的思考能力・コミュニケーション能力

# 入試概要-会計専門コース

## 1-E: 会計専門コース 学内5年一貫修了制度入試(7月、10月)

早稲田大学各学部を、2025年度中に卒業または卒業見込で、かつ、以下(1)、(2)および(3)を**すべて**満たす者

(1) 早稲田大学各学部に3年以上在籍し、かつ**110単位以上**を修得し、うち「**A**」以上が**70単位以上**

(2) 次の①から④の**いずれか**を満たしていること

①公認会計士試験短答式試験に合格

②税理士試験のうち1科目以上、科目合格

③日商簿記検定試験1級に合格

④会計学、商法、租税法、経済学(ミクロ経済学・マクロ経済学)に関する科目につき、24単位以上が「A」以上

(3) **先取科目**を学部4年生以上に在籍中に**20単位以上修得予定**

(政治経済学部、法学部、文化構想学部、文学部、教育学部、商学部、理工3学部、国際教養学部が可能)

# 先取り科目

早稲田大学 政治経済学部、法学部、文化構想学部、文学部、教育学部、商学部、基幹理工学部、創造理工学部、先進理工学部、国際教養学部の4年生以上に会計研究科開設科目の一部を開放し、履修が可能。

会計研究科開放科目の修得単位は、会計研究科へ進学した場合、会計研究科の『修了必要単位』として申請が可能。認定された場合は、修了要件単位数の2分の1を超えない範囲で修了単位に算入可能。

先取り科目を履修登録する際には、**学部の成績を証明する書類(成績証明書、成績照会画面のコピー等)の提出が必須**です。(特に学内5年一貫修了制度入試の受験を検討している方は証明書類の提出をしなかった場合、単位を修得したとしても修了必要単位への算入ができず、早期修了の要件を満たせなくなる場合があります。)

対象科目や登録時期等の詳細等は所属学部のWebページおよび以下の会計研究科Webページをご参照ください。

<https://www.waseda.jp/fcom/gsa/students/class>

(会計研Webページ ホーム > 在学生の方 > 授業・科目登録)

# 入試概要-会計専門コース

## 1-F: 会計専門コース 飛び級入試(10月、12月)

出願時において4年制大学の正規課程3年次に在学中であり、  
次の(1)および(2)の**両方**を満たしていること

(1) 在学中の大学が発行する当該課程の成績証明書(和文)において、**75単位以上**を修得し、**「A」以上が50単位以上**

(2) 次の①から④の**いずれか**を満たしていること

- ① 公認会計士試験短答式試験に合格
- ② 税理士試験のうち1科目以上、科目合格
- ③ 日商簿記検定試験1級に合格
- ④ 会計学、商法、租税法または経済学(ミクロ経済学とマクロ経済学)に関する科目につき、合計20単位以上が「A」以上

(\*) 大学等に在学中のまま入学することは、二重学籍となるためできません。  
入学までに大学等を退学していただく必要があります。

# 奨学金

パンフレット  
p.22

## 学内奨学金(給付)

奨学金名	奨学金額(単年)	2024年度割当数
大隈記念奨学金	400,000円	2名
小野梓記念奨学金	400,000円	10名
校友会給付奨学金	400,000円	2名

## 会計研究科奨学金(給付)

対象者	奨学金額	割当数
ESSEC 交換留学プログラム 参加者	300,000円	2名程度
ESSEC Summer Module 参加者	150,000円	2名程度
Jacksonville 交換留学プログラム 参加者	300,000円	2名程度

奨学金名	奨学金額(単年)	割当数
私費外国人留学生支援	300,000円	4名

# 奨学金

パンフレット  
p.22

## 会計研究科奨学金(給付)

### 入学前予約採用給付奨学金－会計専門コース

奨学金の採用結果は入試の合格発表と共に通知し、奨学金は入学後に支給(入学時に1回)

入試形態	選考基準	奨学金額
1-A: 一般入試	入試成績が優秀であり、かつ、公認会計士試験論文式に最終合格(全科目合格)している者	100万円
1-C: 学内推薦入試 1-D: 学内AO入試 1-F: 飛び級入試	入試成績が優秀であり、かつ、公認会計士試験論文式に最終合格(全科目合格)している者	100万円
	入試成績が優秀であり、かつ、公認会計士試験短答式に合格している者	40万円
1-H: 英語力を重視した入試	入試成績が優秀であり、かつ特に優れた英語力を有する者	40万円
1-I: IT能力を重視した入試	入試成績が優秀であり、かつ特に優れたIT能力を有する者	

# 奨学金

パンフレット  
p.22

## 日本学生支援機構奨学金(貸与)

奨学金名	奨学金額(月額)
第一種(無利子)	50,000円 88,000円 から選択
第二種(有利子)	50,000円 80,000円 100,000円 130,000円 150,000円 から選択
(*) 日本学生支援機構 第一種 「特に優れた業績による返還免除制度」 全額免除(2,112,000円) 採用者の10% 半額免除(1,056,000円) 採用者の20%  ※免除額は月額88,000円の奨学生を想定	

# よくある質問(FAQ)

Q1: 入試の詳細(出願資格、出願期間、試験日など)は、何をみればよいでしょうか。

⇒「2026年度 入学試験要項」をご覧ください。

Q2: 「1-A: 会計専門コース 一般入試」の筆記試験(12月実施)のためには、どのような学習をすればよいでしょうか。

⇒11月の日商簿記1級や12月上旬の公認会計士短答式試験を目指した学習に沿ったものと考えればよいと思います。むしろ、入試の先を目指してください。

Q3: 「1-C: 学内推薦入試」と「1-D: 学内AO入試」は、どのように異なるのでしょうか。

⇒いずれも、早稲田大学各学部の4年生で卒業見込の方を対象としていますが、「1-C: 学内推薦入試」では、出願資格として成績条件等を満たす必要があり、また、早稲田大学の専任教員作成の所定の推薦書が必要です。出願資格を満たしているのであれば、「1-C: 学内推薦入試」による出願をお勧めいたします。

Q4: 「1-F: 飛び級入試」(10月実施、12月実施)は、早稲田大学以外の在学生でも受験できますか。

⇒はい、できます。ただし、学部に在学中のまま入学することはできません。

# よくある質問(FAQ)

Q5:「会計専門コース」で入学した場合も、アクチュアリー関連科目を受講できますか？

⇒はい、できます。

Q6:「アクチュアリー専門コース」で入学した場合も、修了後に、公認会計士試験短答式の3科目免除を受けることができますか？

⇒所定の会計科目の単位を修得すれば、免除を受けることができます。

Q7:公認会計士等の試験のために、専門学校(試験予備校)との両立は可能でしょうか。

⇒はい。ただし、「両立」というよりも「補完」と考えて下さい。

Q8:社会人経験者の方は、どのぐらいいますか。

⇒2割ぐらいです。ただし、フルタイムの勤務をしながらの学位取得は難しいため、何らかの工夫が必要です。

Q9:2026年度の授業は対面で行いますか。

⇒ほとんどの授業を対面で行います。